

胃 ESD 後病理標本における pVM1/X に関連する因子と転帰に 関する検討

情報公開文書

日本赤十字和歌山医療センターでは、以下にご説明します研究を実施します。この研究への参加を希望されない場合は、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。またお申し出された場合でも、いかなる不利益を受けることはございませんので、ご安心ください。

研究目的

■概要

【対象】当院で2010年2月から2024年3月の間に早期胃癌に対してESDを行い、pT1aもしくはT1b, 1y0, v0, pM0であった1767例。

【方法】(検討1)pVM1/Xに関連する因子についての検討。対象をpVM0群(A群)とpVM1/X群(B群)に分け、患者背景因子(年齢・性別)、病変因子(大きさ・肉眼型・病変部位・ULの有無・深達度)、治療因子(治療時間・一括/分割)を単変量解析し、抽出された項目で多変量解析を行った。(検討2)pVM1/X例の転帰に関する検討。追加外科手術例における遺残の有無、経過観察例における局所遺残再発の有無および原病死の有無を評価した。

研究の背景

1. 胃ESDにおいて、剥離中に粘膜内へと切り込んでしまうことや焼灼の影響などにより、切除後の病理判定でpVM1/Xとなることが時に経験される。pVM1/Xに関連する因子や転帰に関する報告は少ない。

2. 研究の目的および意義

【目的】胃ESD後病理標本におけるpVM1/Xに関連する因子と転帰を知ること

【意義】胃ESDにおいて、剥離中に粘膜内へと切り込んでしまうことや焼灼の影響などにより、切除後の病理判定でpVM1/Xとなることが時に経験される。pVM1/Xに関連する因子や転帰を知ることによって患者のその後の治療選択肢が増える可能性がある。

研究の対象となる方

本研究では、2010年2月から2024年3月の間に当院で治療された胃ESDを施行した1767例を対象とする。

研究の方法

電子カルテを使用して、匿名情報に加工したカルテ・データを使用します。このデータをもとに、臨床症状・内視鏡所見、治療後の変化を検討した

使用する情報および個人情報の保護

患者さん個人番号（ID）と氏名が含まれていない状態で、電子カルテからデータを抽出します。また研究用パソコンは、インターネットにつなぎません。論文化から10年程度データを保存しますが、その後に適切にデータを破棄します。

研究資金・利益相反について

該当する利益相反はなく、研究資金は日本赤十字社和歌山医療センターから提供されます。

研究計画書などの入手・閲覧方法・手続き

研究計画書などは入手閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

個人情報の開示にかかる手続きについて

ご自身の情報を閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

研究責任者

下山 雅之 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 医師

共同研究者

岩上 裕吉 消化器内科 副部長

中谷 泰樹 消化器内科 部長

お問い合わせ先

日本赤十字社和歌山医療センター 総務課

電話 073-422-4171（代表電話）

所在地 〒640-8558 和歌山市小松原通 4-20